

## はじめに

大阪歴史博物館では、館蔵資料の活用・公開をひとつの柱として、さまざまな調査・研究に取り組んでまいりました。この調査・研究事業では、特に難波宮が置かれた古代、商都として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視しています。そのため、「難波宮研究」および「大阪学研究」を標榜し、その成果を得られるような研究を推進してきました。

特に共同研究事業では、外部研究者の方々を交え、より広い観点から博物館所蔵資料の価値を高めるべく実施し、その成果を広く市民や研究者に公開しています。本報告書では、令和2年度から4年度にかけて実施した、共同研究「難波宮と東アジア都城の比較研究」の成果を報告いたします。

本書が広く活用され、大阪の歴史と文化に関する研究の発展に寄与することができたら幸甚です。末筆ながら、当館の共同研究事業にご協力を賜りました関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

令和8年（2026）3月

大阪歴史博物館

## 目次

|                                                 |                   |    |
|-------------------------------------------------|-------------------|----|
| I . 共同研究の目的と概要                                  | （ 李 陽浩 ）          | 1  |
| II . 論考                                         |                   |    |
| 1) 古墳時代倭王宮から小墾田宮へ                               | （ 積山 洋 ）          | 8  |
| 2) 難波の羅城をめぐる覚書―東アジアとの比較を中心に<br>.....            | （ 村元 健一 ）         | 26 |
| 3) 「不可殫論」ノート：『日本書紀』にみえる特徴的な<br>表現とその由来          | （ 李 陽浩 ）          | 36 |
| 4) 後期難波宮跡における宮域東辺地区の区画施設の性格<br>について             | （ 田中 裕子 ）         | 44 |
| III . 報告                                        |                   |    |
| 1) 付言                                           |                   | 56 |
| 2) 令和2年度共同研究「難波宮と東アジア都城の比較研究」に伴う<br>出土遺物の年代分析報告 | （ パリノ・サーヴェイ株式会社 ） | 58 |